

2015 年度春季海外研修（スペインコース）研修レポート

盛岡短期大学部 Sさん

はじめに

2月21日から3月14日までの三週間、スペインのアルカラ大学で行われた語学研修に参加した。この研修は、他大学の学生との合同研修で、北海道や石川県など様々な地域の学生が参加していた。私は、県立大学でスペイン語の講義を受けていたこと、以前からスペインの音楽や文化に興味があったことからこの研修に参加した。滞在中はホームステイをし、授業のない午後や土日はマドリッドやトレドなど、スペインの名所に観光をしに行くなどした。語学研修なので語学学習の面はもちろん、文化学習の面でも充実した三週間だった。

授業について

授業は、月～金の週5日、9～13時までを2コマに分けて行われた。クラスは初日に行われたテストで分けられ、私は初級クラスになった。1クラス12人ほどで、同じ研修に参加した日本人学生で構成されていた。授業はすべてスペイン語で行われ、初めて触れる単語がほとんどだったので、辞書が必要だった。だが、先生たちは生徒が理解していないと分かると、知っている単語に置き換えたり、例や図を用いて説明してくれたりした。はじめのうちは簡単な挨拶から授業が始まったが、次第に難しくなっていくので、日本であらかじめ少しでも勉強しておく、理解が早いと思う。授業の内容は日常生活でよく使う表現が多く、学校で勉強したら、すぐに家やお店などで使って試すことができた。授業では二人程度のグループで話をしたり、先生と話をしたり、クラスの前で発表をしたりととにかく話す機会が多かった。発表では日本で住んでいる所について、有名な日本人についてなどを話したが、内容については先生から指定があるのであまり気を張らずにできるものだった。私は大学でスペイン語の講義を受けていたが、ろくに復習もせず飛び込んでしまったので最初のころは先生が何を言っているのかさっぱり分からなかった。そのことに関してはとても悔やんでいる。しかし、授業を受けていると、段々と聞き取れるようになり、授業と実生活（ホストファミリーとの会話など）が繋がっていった。ホームステイをするので、とにかくスペイン語を使う機会が多いので、そういった意味では理解がしやすい環境だったといえる。

ホームステイについて

上記でも触れたが、スペインに滞在中はホームステイをした。私のファミリーはパパとママの二人暮らしで、スペイン語がほとんど話せない私を温かく迎えてくれた。スペイン人はあまり英語が話せなく、実際にファミリーも英語が話せない人が多かったようだが、私の場合はママが英語を勉強しているということで、初めのころは英語で話すことも多かった。だからといってスペイン語に触れなかったわけではなく、家にいる間のほとんどは

テレビをつけてくれ、常にスペイン語を聞いている状態だった。食事も家でとることがほとんどで、そうでないときはスペイン風のサンドウィッチを作ってくれたので、食事でお金がかかることはほとんどなかった。スペインでは昼食が一日のメインの食事なので、授業が終わってから家に帰り、家族と一緒に食事をした。パパがとても料理が好きな人だったので、美味しい手料理を作ってくれた。口に合う、合わないは個人差があるかもしれないが、私の場合はどの料理も美味しかった。スペインはオリーブが名産なので、どんな料理にもたくさんのオリーブオイルがかかっていたが、多いと感じるだけで体調崩すほどではなかった。とにかくたくさん食べるように勧めてくれるので、限界が来る前お腹がいっぱいと伝えたほうが良いと思った。お風呂やトイレについてだが、もちろんスペインに湯船につかる習慣はなく、私がお世話になった家にはバスタブもなかった。マンションだったため、朝早くや夜遅くにシャワーを浴びるのは、隣人に迷惑がかかるからと、入浴時間に制限があった。また、トイレも同様に、深夜にトイレを流すと寝ている人を起こしてしまうので流さないという習慣があるようだった。

観光について

平日の午後、土日のほとんどは、自由参加の観光のプランがあった。滞在したアルカラ・デ・エナーレスの観光や、マドリッド観光などがあった。トレドやセゴビアにはバスで行き、一日かけて観光をした。自由参加のため、参加しなければ自分の好きなように街を観光できるので、興味に合わせて参加することができた。その中でも私が特に印象に残っているのはマドリッドでの美術館訪問だ。マドリッドには3つ大きな美術館があり、そのうちのプラド美術館とティッセン美術館を訪れた。美術の教科書でみたことのある作品を間近に見ることができ、美術に詳しくなくても楽しめた。宗教的な絵画、歴史的な絵画など、絵だけで時代背景が分かるものなどが多く、興味深かった。また、フラメンコ鑑賞もしたが、スペインの伝統文化に触れる機会があるのはとてもよかった。私が行った劇場は会場が狭く、目の前に演者がいるため、会場の一体感や演者の細かな動きなど見ることができた。日本だと、本場のフラメンコはチケットが高かったり、主要都市でしか開催されなかったり、そもそもあまり開催されなかったりするが、現地だと毎週のように開催されているようであったし、チケットもとても安いので気軽に楽しめる。

まとめ

三週間という、語学を本気で習得するには短い期間ではあったが、スペイン語を聞き取る力がとても伸びたことに驚いた。最初の一週間ほどは耳に入るすべての言葉が「外国語」として聞こえていたが、あるときからしっかりと「スペイン語」として聞こえるようになっていた。これは、とにかくスペイン語にまみれる、という生活であったからだと思う。めげずに話をしてくれたホストファミリー、丁寧に説明してくれた先生たちにはとても感謝している。しかし、言われたことの意味はできるがしゃべることができないという状況に陥ってしまったため、とてももどかしく悔しい思いをした。自分が喋ることに関しては、もっと積極的にならないと身につかないと実感した。また、この研修ではスペイ

ンの文化や歴史に触れる機会がとても多く、異文化とのかかわり方や、西洋の歴史などにより興味を抱くきっかけにもなった。観光だけにかかわらず、滞在したアルカラ・デ・エナーレスという街自体が文化遺産で、街のメイン通りはローマ時代の建物であり、身近に歴史を感じることができた。特別に観光をしなくても、通学路に古い教会があったり、広場があったりと、日常が日常ではないような体験だった。

最後に

今回の研修では本当にたくさんのことを学び、感じ取ることが出来、とても貴重な経験であった。そして、この研修は私だけのものではない、と強く思った。実際に希望し、体験したのは私だが、そこに至るまで、多くの人に支えられてきた。とても濃い三週間を過ごし、充実した時間を過ごすことが出来た。この体験を忘れずに、今後につなげていきたい。

盛岡短期大学部 Tさん

2016年2月21日から3月15日までの24日間、私はスペインのマドリード州にあるアルカラ大学での語学研修に参加しました。英語圏の国には何度か訪れたことがあり、ホームステイもこれまでに2回ほど経験していたので少しは慣れているものだと思っていましたし、万が一困った事があっても英語を使えば何とかかなると思っていました。しかし、実際に現地での生活を始めた時、それまでの自分の考え方が甘かったのだという事を痛感しました。

スペインの人々は全くと言っていいほど英語を使いません。大学にも英語を話すことができないという先生がいました。私のホストマザーもスペイン語以外の言語は話せませんでした。そのため、いざとなった時に英語ではどうにもならなかったのです。全てスペイン語とジェスチャーでどうにかするしかありませんでした。私は簡単な日常会話と挨拶ぐらいはわかるものの、知らない単語があまりにも多かったため、最初の3日間はその日あったことをホストファミリーに伝えるだけでかなり時間がかかりました。それと同時に上手く伝えられないもどかしさとストレスで精神的にも相当疲れが溜まりました。これがこの研修に参加して一番苦しかったことです。ですが、1週間も過ぎると耳が慣れて、なんとなくですが相手の言っていることを聞き取れるようになりました。また、私自身も少しずつではありますがジェスチャーを使わなくてもスペイン語で言いたいことを伝えられるようになりました。3週間目には必要最低限の会話だけでなく、冗談まで言い合えるようになりました。ホストファミリーにも、「来た時は全然喋らなくてどうしようかと思ったけど今は話し出したら止まらないわね」とまで言われました。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、1日中スペイン語しか話せない環境に長期間いると、自分でも驚くほど身につきます。慣れないうちは大変かもしれませんがどんどんコミュニケーションを取っていく事をおすすめします。話さなければ始まりません。

スペインの人々は、お喋りが大好きです。時間さえあればずっと立ち話しています。逆に言えば、黙っている人は気味悪がられてしまいます。日本人は空気を読んで黙っていたり遠慮したりすることが多いですが、スペインではそれは通用しません。言わなければわからないし、意思表示ははっきりしないと周りに流されてしまいます。ただ単に自己中心的だということではなくて、自分の考えを持っていて、尚且つ自己主張が激しい傾向にあるのです。遠慮して素直に相手の言うことを黙っているだけでは嫌われてしまいます。積極的に話に参加して自分からどんどんコミュニケーションを取ろうとする人のほうがスペイン人には好まれます。私は日本ではお喋り好きなほうですが、スペインに行つてすぐの頃は、間違つた表現をしてしまうのが怖くてあまり自分から話題を振りませんでした。しかし、それではどうしても話の輪の中に入っていけなかったのです。ここで自分には無理だと諦めてしまうと、相手は「自分たちのことが嫌いなのだ」と勘違いして話しかけてくれなくなります。間違つてでもいいから、わかる単語を使ってとにかく話してみることが大切なのだと気づきました。スペインの人は案外、間違つていても気にしませんし、正し

い表現をおしえてくれます。

今回、この研修会に参加してみて、これまで自分がスペインに対して抱いていたイメージが大きく変わったような気がします。もちろん想像通りだったこともありましたが、日本での情報だけでは現地でのハプニングは味わえないし、ネイティブの方と直接話す機会というものなかなかありません。実際に体験して初めて、スペイン人の人柄や、その土地の料理の味、日常生活のルールなどを知ることができました。3週間という時間は少し短かったかもしれませんが、その間に個人的な旅行では味わえない貴重な経験をしたと思います。本当に参加してよかったと思います！